

三重県鈴鹿市江島方言の立ち上げ詞

佐藤 虎 男

I. はじめに

1. 調査対象地：津と四日市との間に位置し、伊勢湾沿いに展開する旧河芸郡白子町の三大字（北から江島・白子・寺家）に行われる言葉の総体を一方言と認める。今回は江島の話者をもってこれを代表する。旧白子町の生業は、商・農・工・漁業と多種にわたるが、中でも伊勢型紙で全国的に知られる。戦後、近鉄による名古屋・大阪方面への交通の便のため、海沿いの町が西へ大きく発展した。
2. 調査年月日：2005年9月28日 午後1時20分から午後4時まで
3. 話者：佐藤昌平（昭和4年12月15日生れ）〈敬称略〉
4. 調査者・調査場所：佐藤虎男・話者の自宅
5. 調査方法：統一調査表による質問調査
6. その他：①アクセントを高低二段に特化して高音部位に傍線をつける。
②調査結果の全体につき、話者の補正確認を得た。

II. 調査結果

I. 自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」

(1) どっこいしょ。一休みしよう。

○ドッコイショ。ヤレヤレ。イップク ショー カー。

(2) どうれ。出かけることにしよう。

○ヨッシャ。マタ イコ カー。／○ドレ。ポチポチ デカケルト スル カー。

(3) よいこらしよ。とうとう山の天辺に着いた。

○ヨッコラショット。ヤーレヤレ、ヤット ウエー キタ ワ。〈「ヨッコラショ」は、最後の一段を登りきるときの掛け声である。これはまた座るときにも言う。〉

(4) しまった。もうちょっとで落ちるところだった！

○アー コワ。モー チョットデ オチル トコヤッタ ワ。〈「しまった」に相当する「シモタ」は、未遂の時点ではなく、果遂の時点での発話。〉

(5) くわばらくわばら。恐ろしかった。

○アー コワカッタ。ヨカッタ ワー。モー チョットデ イッテ シマウ トコヤッタ ワ。〈「くわばらくわばら」に相当する言葉はない。〉

(6) しめた！今度の魚は大きいぞ。

○ヤッター。カカッタ ゾー。ダイブ オッキソーヤ ワ。〈「ゾー」は尻上がり〉

(7) ままよ。飛び越えるしかない。

- エーイ。トビコエルシカ シャーナイ ワ。
- (8) なにくそ！負けてなるものか。
○ナーニクソ。マケル モンカー。
- (9) しめしめ！誰も気がついていない。
○ヨッシャ、ダレモ オラヘン ナー。<このような場面で「しめしめ」なんて言う余裕はない。>
- (10) ちえっ。つまらないなあ。
○イヤヤ ナー。ソナナ コト ユワン ナラン ノ。<「ちえっ」は、言葉というよりは舌打ちの音だ。>
- (11) ちくしょう！仕返しをしてやる。
○コンチクショー。イマニ ミトレ。ヤッタラナ キガ スマン ワ。
- (12) くそっ！覚えている！
○クソッ。ミトレ ヨー。<「ヨ」は必ず尻上がり>
- (13) おやおや、いったいどうしたの。
○アレアレ、ナント シタ ン。ナニ ナイトン ノ。<こういう場面では、昔、母が「オーオー。」と言っていた。憐憫の情があふれていた。>
- (14) えへん、えへん。我輩は村一番の力持ちじゃ。
○ドヤ。ワシワ コノ チョーナイデ イチバンノ トッショリヤ ンナ。
- (15) はてな、ここはどこだろう？
○アレアレ、ココ ドコヤロ ナー。コマッタ ナー。ドゴイ キタンヤロー。

II. 他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」

- (16) はい、承知いたしました。
○ハイ。カシコマリマシタ。<隔て意識の大きな人から公の場で頼まれたとき。こういう場合、半世紀も昔の老女は「ヘイ。」をよく言った。>/○ハイ。ワカリマシタ。
<先輩から頼まれたとき>
- (17) はい、宜しゅうございます。
○ハイ。ヨー ワカリマシタ。
- (18) ええ、ここに居ます。
○ハーイ、ココニ オリマス。
- (19) んだ。私の傘です。
○オー、ワシノヤ ワナ。
- (20) さよう、さよう。あなたの言う通り。
○ソヤソヤ。ソノ トーリヤ。

(21)ほいきた。おやすいご用です。

○ヨッシャ。ワカッタ ワナ。

(22)よっしゃ。やりましょう。

○ヨッシャ。サシテ モラウ ワ。

(23)よしきた。お引き受けいたしましょう。

○ヨッシャ。ホナ ヤラシテ モラウ ワ。

(24)がってんだ。一緒に行きましょう。

○ソラ エー ナー。ホナ イッショニ イコ カー。

(25)かっぱのへだ。簡単だ。

○オチャノコサイサイ。ホナナ コトグライ オヤスイ ゴヨーヤ。

(26)いえいえ、とんでもございません。

○イヤイヤ、アレデ オヤクニ タチマシタ カイナー。ホナナ コトグライ オヤスイ ゴヨーデ。<昔、母がよく「メッソーモ ゴザイマセン」を言っていた。女の人の言葉。よほど改まった場面では今でもまれには言うだろう。>

(27)なんの、たいしたことではございません。

○ナンノナンノ、ホナナ コトグライ タイシタ コト アラシマセン ガナ。

(28)なあに、擦り傷ぐらい、すぐ治るさ。

○ナンノ、コンナグライ エー ワナ。スグ ナオル ワナ。/○ダンナイ、ダンナイ。コンナ スリキズグライ カマヘン。<加害者がことわりを言ったような場面で。>

(29)なにさ、いつも調子の良いことばかり言って!

○ナンヤー、ソナモノ。カッテナ コトバッカ ユーナ。

(30)いやはや、とんだ目に遭いました。

○イヤー モー、エライ メニ オータ ワ。

(31)へん、勝手にしやがれ。

○フン、カッテナ セー。/○カッテナ スル ヤワ。/ ○フン、カッテナ シヤガレ。

(32)なめるんじゃねえよ。こいつ!

○バカニ スナ。バカモン。

(33)冗談じゃない。口から出任せを言って。

○チョットチョット、ナニ ユートンノヤ。ホナ バカナ コト アル カー。デマカセ ユーナ。

(34)だまらっしゃい。出鱈目ばかり言って。

○ダマレー。ナニ ユートンノヤ。

(35)そうは問屋がおろさねえ。黙っていらねえ。

- ソーワ イカン ゾナ。ソナ ウマイ コト イク カナ。ダマツトレル カ。
- (36)うそもへちまもありやしねえ。我慢できねえ。
○ホンナ バカナ コト アル カー。ダマツトレヤン ワ。
- (37)寝言は寝ていえ。このやろう。
○ブツサ ユーナ。ネゴトミタイナ コト ユートンナ。バカヤロー。<「アホタレ」とも言う。バカヤローのほうが新しいか。>
- (38)あたりきしやりきのけつのあな。当たり前だ！
○ナニ ユートンノヤ。ホンナ コト アタリマエヤ ンカ。
- (39)きみようきてれつだ。それは変だ。
○ソラ オカシー ナー。ホンナ コト ナイ デー。
- (40)ほほう、それは親孝行なお子さんですね。
○ホー、カンシンナ コヤ ナー。
- (41)まいったまいった。しかたがない。
○マイツタ ナー。モー シヨナイ ナー。

Ⅲ. 他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する「立ち上げ詞」

- (42)もしもし、すみません。役場はどこにありますか。
○モシモシ、スンマセンケド ヤクバワ ドコデスヤロ。オシエトクナハレ。
- (43)のうのう、旅の人。お立ち寄り下さい。
○ア、イラッシャーイ、イラッシャーイ。ナカイ ハイッテ ミテッデー。／○オキヤクサン、オキヤクサン。ヤスー シトクデ マー ヨッテッデー。
- (44)ほら、ご覧なさい。向こうに公園があります。
○ホレ、アレ ミテ ミー。アッチニ コーエンガ アルヤロ。
- (45)やいやい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ？
○オイオイ。コンナ アサ ハヨカラ ドコ イク ノ。
- (46)よう、兄弟。これから何をするつもりだい？
○ヨー、ドコ イクンヤ ナ。<「ヨー」の中に「兄弟」と呼びかける気持ちがすでに入っている。久しぶりに会ったときなどには「ヤー」を言う。>
- (47)いざ、さらば。
○ヨー、ゲンキデ ナ。マタ ナ。／○ホタラ サヨナラ。<親しい間では「サヨナラ」はあまり言わない。>
- (48)ささ、ご遠慮なく、召し上がって下さい。
○サーサー、ゴエンリョ ナク オアガリ クダサイ。<非常に郑重。>／○サーサー、エンリョ セント タベテッデー。<気楽な間柄で>

49)さて、そろそろ一服しませんか。

○サー、ソロソロ イップク シヨ カー。/○ソレワソート モー イップクノ ジ
カンヤ ナー。

(50)これこれ、ちょっと静かにしなさい。

○コレコレ、シズカニ セン カー。シズカニ セナ アカン。

(51)おい、こら。万引きをしてはいけない。

○オイ、コラ。ナニ シトンノヤ。マンビキ シタラ アカン ゾー。<「オイコラ」
と続けることもあるが、「オイ」「コラ」はそれぞれ独立して言われることが多い。>

(52)おどりゃあ。いい加減にしないか!

○アホタレ。ナンベン ユータモ ワカラン ヤッチャ ナー。エーカゲンニ セン
カー。/○コノバカタレガー、エーカゲンニ セント エライメニ アワッ ゾー。
<「アワッ ゾー」は、「アワス ゾー」の音転。尻上がり調子に言う。>

(53)おのれ、裏切りやがったな。

○ワレ、ダマシャガッタ ナー。<必ず尻上がり調子。>

(54)どっこい。その手には乗らない。

○ウマイ コト ユー ナー。ソノ テニワ ノラン ゾヤ。

(55)どうだ、参ったか。

○ドヤ、マイッタ カ。

(56)せいの、よいしょ!

○セイ ノー、ヨイショ。

(57)ようい、どん!

○ヨーイ、ドン。

(58)いっせいの、で!

○セーノ、セーノ。

(59)よいしょ、よいしょ、もう一息だ!

○ヨイショ、ヨイショ。モー チョットヤ ゼー。

(60)うんとこしょ、どっこいしょ。もう少しだ。

○セーナー、ヨイショ。モー チョイヤ。

(61)わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい。

○ワッショイワッショイ。

(62)はじめはぐう、じゃんけん、ぼん!あいこでしょ。

○ジャンケンホイ。アイコデホイ。

(63)きをつけえ、まえへならえ、なおい。

○キオツケー。マイエー ナラエ。ナオレ。

(64)きりつ、れい、ちやくせき。

- キリツ。レイ。チャクセキ。
- (65)ばんざい、ばんざい。やった、やった！
○バンザーイ。ヤッター。ヤッター。
- (66)えいせいおう。頑張るぞ。
○エイエイオー。<若い者が流行で言うが、土地の言葉では該当するものがない。>
- (67)中村君の誕生日を祝して、かんぱい。おめでとう。
○ナカムラクンノ タンジョービ オメデトー。カンパーイ。
- (68)やっほう、やっほう。
○ヤッホー、ヤッホー。<わしらのような年のものは言わない。>
- (69)ふれえ、ふれえ、白組。
○フレイフレイ。シーローグーミー。
- (70)おにはそと、ふくはうち。
○フクワー ウチ、オニワー ソト。<「鬼は外」で戸を閉める。うちではこの順序で今もやっている。>
- (71)べらぼうめ、とんでも無い子だ。
○コノ コワ モー、ドムナラン コヤ ナー。オシイレー イレタル ソー。<「ソー」は尻上がり調子。「べらぼうめ」に相当する言葉は思い出せない。>
- (72)それみたことか、わんぱく坊主。
○ホレ ミヨ。アホナ コト シテ。ユワン コツチャ ナイヤロ。
- (73)ざまあ、みろ。いい気味だ。
○ホレ ミー。ユワン コツチャ ナイ ワー。
- (74)ちくしょうめ、ひどいことを言いやがる。
○コンチキショー。イータイホーダイ イヤガッテ。
- (75)このやろう。どうしてくれようか。
○コラー。<この場面にぴったりの言葉が思い出せない。>
- (76)たわけ、ふざけた事を言うんじゃない。
○アホタレ。フザケタ コト ユーナ。<「ユーナ」のところをさらに卑罵して「ヌカスナ」とも言う。>
- (77)ばかやろう、いい加減なことを言うな。
○バカヤロー。エーカゲンナ コト ユーナ。<「ユーナ」のところをさらに卑罵して「ヌカスナ」とも言う。>
- (78)あなかま、静かにしなさい。
○ヤカマシー。シズカニ セー。
- (79)しいいっ、静かにして！
○シーッ。<これだけでよい。すでに静かにしての意が出ている。>

(80)ちちんぷいぷい、蛙、蛙、生き返れ。

<知らない。聞いたことはあるが、この辺では言わない。>

(81)あっかんべい、鬼さん、こちら。

○アッカンベー。オニサン コッチ。テノ ナル ホーエ。

(82)あっぱれ、お見事。立派です。

○ヨー ヤッテ クレタ ナー。/○ヨー ヤットクナシタ ナー。<これは「やっ
ておくれなさった」で、非常に丁寧な老年層の言葉。>

(83)でかした、でかした。日本一。

○ヨー ヤッタ、ヨー ヤッタ。ニッポンイチヤー。

(84)しっけい!すみません。

○ゴメン。ソソー シテ ゴメン ナ。/○スンマセン。ソソー シテ シモテ。

(85)あばよ、達者でな。

○ジャー、マタ ナ。ゲンキデ ナ。

III. 総括 (まとめ)

(1) この種の事象を掘り取ることの重要性緊要性は、ますます明らかである。調査項目の周到綿密に助けられて、この種の感動文の全国状況が明らかになることはじつに喜ばしいことである。われわれが他地の方言調査に出向いて、調査後、この感動文ないし感動詞の分野に一番調査不徹底を感じるのは、筆者だけであろうか。話者自身にしてからが、ほとんど無意識に発話している事象の多い分野である。このような困難な対象に取り組むきっかけを与えられた功績ははなはだ大きいと言わねばならない。

(2) ただ、「立ち上げ詞」というネーミングはこれでよいか。まず、「詞」とあるのは、ちょうど文の末尾の「文末詞」と呼応するような、文成立の要素としての「文頭詞」というのに近い命名であることを思わせる。しかし、以上に掘り上げられたほとんどすべての事象が文的性格のものであることからすれば、連文論次元での命名でなければならない、のではあるまいか。つまり、「立ち上げ詞」ではなく、「立ち上げ文」ではないか。

さらに、「立ち上げ」にも問題はないか。何を立ち上げるのか。連文に先立つ文をか、行為に先立つ文をか。ねらいは「連文頭の立ち上げ」の意味にあると理解するが、それにしては、一文で完結するようなもの、連文を連想させない文形態のものも含まれている。調査も困難、命名も困難ではあるが、最高の命名を期待したい。

(さとう とらお 大阪教育大学名誉教授)